

(◎小論文 ・ 総合問題 ・ 日本語作文) 出題意図

薬学科・創薬科学科

○ 試験の種別

- ・ 総合型選抜（ディスカバリー入試）
- 総合型選抜（大学入学共通テストを課すもの）
- ・ 学校推薦型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを課さない）
- ・ 学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課すもの）
- ・ 社会人選抜
- ・ 私費外国人留学生選抜

SDGsにおける17の目標	3. すべての人に健康と福祉を
本学部では、将来、医薬品の開発・研究に従事する人材、および医薬品の適正使用を推進し、様々な疾病を抱えている患者さんの治療に携わる人材の輩出を目指している。これは、SDGsにおける17の目標のうち、「3. すべての人に健康と福祉を」に、直接、結びつくものである。 本小論文問題では、まず、疾病の薬物治療において、最も一般的である、錠剤の経口服用による治療現場を提示した。そして、薬物の治療効果へ影響を及ぼすのは、併用する薬だけでなく、サプリメントにも、その可能性があることを示した。更に、医薬品、サプリメントが、本来、化学物質であることを意識させ、物質同士の相互作用、物質と生体の相互作用の可能性、また、そのことが薬物の薬理効果を変化させる可能性があることを想起させることを意図した。その上で、問1において、薬理効果減弱に結びつく相互作用としてどのようなものが考えられるか考察させ、問2において、その考察結果を検証する方策について、実際の疾病治療の現場を想定した上で、受験生独自の考えを提示することを求めた。 以上を通じて、受験生の思考力・判断力・表現力、更には化学物質である医薬品の捉え方を評価することで、本学部のアドミッション・ポリシーに合致した、将来、医薬品開発を担う研究者として、臨床現場で薬物治療を推進する薬剤師として、活躍できる学生の選抜につながると考えられる。	